

金子耕式の **その8** ファミリートーク

北海道と沖縄県にて好評放送中!!



あなたは早口ことばが得意ですか？

「バス、ガス爆発」とか「生麦、生米、生卵」とかいろいろあります。実は世の中にはもっともつと発音しづらい言葉があるのです。それは、「ごめんなさい」という単純な一言です。

かつて日本経済新聞で、「夫と妻が抱く不満のトップ10」が発表されました。誌面の関係で、10位から1位までを詳しくご紹介することはできませんが、夫も妻もお互いに不満の第2位にあげたのは、「謝るべき時には、きちんと謝ってほしい」ということでした。実は、先日も講演会でこのことをお話ししたら、1人の男性が手をあげて言われました。「悪いと分かっても、男として妻に謝るのはなかなか難しいですよ。」
「へー、どうしてですか」と聞き返すと、「謝ったら負けを認めることになるしね。そうしたら、男としての威厳が保てなくなるでしょう」という答えでした。

しかし、現実はその正反対です。どんな人間関係においても、「ごめんなさい」と謝ることで人間関係が悪化したり、尊敬を失ったりすることはまずありません。むしろ、自分の非を認めて素直に謝れる人は、誠実で信頼できる人と思なされるのです。しかも親子や夫

婦の間では、何よりも互いの信頼関係が大事ですから、悪いと気づいた時には、男でも女でも素直に謝ることが大切なのです。また、子どもたちは両親が謝ったり赦し合ったりする姿を見て、自分の親は信頼できると感じるので。

完璧な親なんていない

子どもを育てる時、私たちはどこまで完璧な親であるべきなのでしょう？ 子育ての講演会で話をすると、参加者の皆さんから、「自分のような欠点ばかりの人間が子どもを立派に育てられるでしょうか」という質問をよく受けます。

実は、ラジオで毎日子育てのことをお話ししている私も、最初の子どもが生まれるまでは、子どもを育てる自信がまったくありませんでした。それどころか、結婚してから5〜6年の間は、子どもを持つことをためらっていたくらいです。だから、長女が生まれたのは30才の時でした。

実際に子どもを育て始めたら、考えが変わりました。世の中、完璧な人間なんていないし、完璧な人間であることが良い親の条件ではないことに気づいたので。

そもそもどんな人間関係もそうですが、人と人が良い関係を築くために必要な条件は、完璧さでは

なく、思いやりや、誠実さや、謙虚さといったものです。子どもの人格を大切にしながら、愛情をもって正直な態度で接して行くなら、子どもたちは親を尊敬し、明るくのびのびと育っていきます。ですから、親はいつでも完全無欠なのだという態度ではなく、失敗したり、間違ってしまったりしたときには、「お母さん、失敗しちゃった」とか「ごめんね、パパが悪かったよ」と正直に認めればいいのです。そういう両親の姿を見て、軽蔑するような子どもはいないし、むしろ自分の失敗や落ち度をちゃんと認めて謝ることができるとお父さんお母さんを、立派だと思ふのです。

「家族に贈るっておきの話」 Vol.2



四六版変形上製本、148P
●定価 1,575 円

「家族に贈るっておきの話」 Vol.1



四六版変形上製本、151P
●定価 1,575 円

ラジオ番組「金子耕式のファミリートーク」を編集したコラム集。FFJのスタッフで元アナウンサーの金子耕式が自らの子育て経験を交え、日本の現状とニーズに合わせたショートメッセージをお届けします。